



飛鳥坐神社の拝殿 明日香村で



(住所) 明日香村飛鳥708
 (祭神) 八重事代主神、大物主神、
 飛鳥神奈備三日月女神、高皇
 産靈神

(交通) 橿原神宮前駅からバス、「飛鳥大仏前」下車。徒歩約5分
 (拝観) 境内自由、駐車場10台無料
 (電話) 0744・54・2071

飛鳥坐神社 (明日香村)



古代から歴代天皇の宮が置かれた「飛鳥京」の地を、見守り続けているのが飛鳥坐神社(明日香村)です。
 日本書紀によると、大國主命の子、事代主神が神々を集めて「天高市」と記された飛鳥に鎮まるとされます。
 その地は「かなび山」

とあがめられ、棚田の風景で知られる同村稲淵に

あったと推測されますが、より民衆に近づくため、平安時代、現在の鳥形山に遷座されました。同神社によると、鳥形山には遷座前の一時期、天照大神が祭られたため「元伊勢」とも呼ばれ、今も摂社「奥の社」に伊勢

神宮(三重県伊勢市)と同じ神が祭られています。初代神主が「天の神が地の神を守るため」にと天皇から「飛鳥姓」を賜り、現在の飛鳥弘文宮司で87代目となります。境内には多くの末社・摂社と共に多数の陰陽石(男女のシンボルをかたどった石)があります。

陽石は、山の神(妻)を迎えて暖かな春を招く力が宿っているとのこと。縁結び、安産に絶大なパワーがあります。毎年2月第1日曜に五穀豊穰、子孫繁栄を祈る「おんだ祭り」が行われます。保存会が鬼とお多福と天狗にふんしてユーモラスな所作を演じ、西日本三大奇祭の一つに挙げられています。(奈良まほろばソムリエの会員 大谷巴弥子)

大國主命の子が神々集め

の会員 大谷巴弥子